

日韓露航路活用 境港で初荷祝う

松江・小松電機産業
倉庫や工場で使うシート
シャッター製造大手の小松

電機産業（松江市）が、境港と韓国・東海、ロシア・ウラジオストクを結ぶ定期貨客船を活用して韓国からの部品輸入を始めた。第1便が境港国際旅客ターミナル（境港市昭和町）に到着

した3日、荷受け式が催された。関係者らが初荷を祝った。写真。

小松電機産業は、1973年創業。85年に高速で自動開閉するシートシャッター「門番」を発売。年間5



千台を販売し国内シェア3割を占めるといふ。ソウルに現地法人を設立し、韓国や中国、台湾などにも輸出している。

この日、境港に到着した初荷は、ソウルで製造された長さ6メートルのアルミニウム

精神科・神経科 内科

上田病院

鳥取市西町1丁目(裁判所前)
☎22-4319・37-1177(内科)

製フレイム500本と巻き取りドラム220本。同社によると、今後は月1回のペースで輸入する予定という。

荷受け式には、定期貨客船を運航しているDBSクルーズフェリー（本社・ソウル）の尹奎漢副社長や県通商物流室の吉川寿明室長

らが出席。吉川室長は「就航から約2年が経ち、日韓連携の象徴的な貨物が来た。航路継続のためにも地元企業の貨物が増えることを期待したい」とあいさつした。（高井和道）